

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校			Unit Plan(年間シラバス)						担当		高橋(伸)・中村・西村			
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー									
高校1年 探究進学／美術／フード			現代の国語		自分をコントロールする Self-Control		他者となつがる Communication		新しい価値を創造する Creation					
時間数			使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機			
2時間／週			新 現代の国語 改訂版 三省堂 新訂版 最新国語便覧 浜島書店		課題発見	戦略的学習力	言語スキル	協働性	データサイエンス	クリエイティビティ	未来志向			
					可能性発見	自己修正	双方向コミュニケーション	ソーシャルリティ	批判的思考	論理的表現力	他者尊重			
					パーソナライズな学び	レジリエンス	感情のコントロール	教科と社会を紐づける力	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認		
単元			単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)									
1 学期	○入門 ・「言葉と声で表そう」 ○わかり合うために ・「届く言葉、届かない言葉」 ・「ひとりではないということ」 ○確かな情報を伝えるために ・「情報はつくられる」 ・「ひとまず、信じない」 ・「情報を編集し、的確に発表する」		○国語で身につく言葉の力 ・世界を言葉と声で表す ○コミュニケーション ・情報を要約する ・情報を関連づけてまとめる ○メディア・リテラシー ・情報を吟味する ・情報と適切につきあう ・パブリックスピーチ		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン				
			新聞記事やWebニュースから、言葉や表現方法について学ぶ。			メディアを通して様々なものの考え方に触れ、実社会で起こっている問題とつなげて考える。								
2 学期	○場に応じて伝えるために ・「中身当てクイズ」 ・「読み比べる一海ガメの無念」 ・「構成や展開を意識して発表する」 ○説得力を高めるために ・「『まるごとのあなた』を」 ・「小さな哲学者」 ・「情報を整理して伝える」		○科学技術 ・根拠を明確にして考えを伝える ・表現の仕方に注意する ・相手を意識して自分の考えを伝える ○国際理解 ・引用の目的や働きを理解する ・説明の仕方を考える ・情報を活用する		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表				
			書籍や新聞記事から、言葉や表現方法について学ぶ。			自分の思いや考えを他者と共有し、考えを深めたり、新しい気づきについて考える。		問いに対しての自分の考えを言語化し、学外の方と共有する。						
3 学期	○考えを共有していくために ・「最短ルートは店の中」 ・「記憶の解凍」 ・「多様な意見に触れる」 ○まとめ ・「言葉で世界を豊かに」		○情報活用 ・事実をもとに未知の事柄を推し量る ・情報を関係づけてまとめる ・伝えることの意味や方法を理解する ○実用的な文章 ・世界を言葉で広げる		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする				
			教科書の作品から、言葉や表現方法について学ぶ。			筆者の主張を捉え、なぜその表現を使っているのか、言葉にこめられた意識を想像する。その過程で様々な表現の可能性を探る。		問いに対しての自分の考えを言語化し、他者と共有する。それらをスピーチし、相互評価する。						
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act					
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart					創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能		●単元テスト(20%) ●小テスト(30%)		●個人での創作活動 ●仲間との協働活動 ●個人での発表 ●発表の相互評価 ●課題提出等、学習進捗状況(50%)		【教材】 ・教科書、便覧、はじめての評論文20選(明治書院) 【ICT】 iPad(アプリケーション:Google系、Padlet、ロイロノート等)、デジタル新聞 【備考】 必要に応じて、新聞、書籍、Webニュース等を活用する。	
・目には見えない思考や感情を、言葉を用いてどのように表現するか ・現代の社会や世界と言葉を通して、どのようにつながっていくか					・写真、新聞記事、本を対象としたパブリックスピーチの実践と相互評価		思考力・判断力・表現力							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head					・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・Padlet(進捗共有および作品共有) ・ロイロノート(作品共有)		主体的に学習に取り組む態度							

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当	鈴木		
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー							
高1／A・B・C組		国語／言語文化		自分をコントロールする Self-Control		他者とながら Communication		新しい価値を創造する Creation			
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機	
2時間／週		三省堂 精選 言語文化		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☐ クリエイティビティ	未来志向	
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャリティ	☐ 批判的思考	☐ 論理的表現力	他者尊重	
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を結ぶ力	☐ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認	
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)							
1 学期	羅生門 近代文学史 漢字テスト	・日本の代表的な古典および近代文学を読み、作品や作家を巡る旅のプランを考える。各地に残る文学的な史跡等を調べることで、日本文化をより身近に感じ取る。		社会的視点 ・世界・社会	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン		
	おくのほそ道 漢字テスト				・実社会で出会うキャッチコピーなどを参考に、より魅力的な提案ができる。 ・アウトプットテスト・課題		・実社会では言語分野における日本文化は、どのように受け入れられ根付いているのか探る。 ・課題、クリエイション				
2 学期	訓読の世界 春望 漢字テスト	・漢文訓読の基礎から取り組み、漢詩、故事成語、論語の世界から先人が構築していった言葉遊びとしての言語を味わい深い文化として感じ取る。また漢詩のパターンに各自で漢字をあてはめ、現代版の漢詩を制作する。 ・古文の世界を現代に繋げて考察し体現する。			他者の視点 ・地域・的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表	
	伊勢 芥川・東下り 漢字テスト	・古典作品を読むことを通し、移り変わる人間の生き方や価値観について気づくことができる。 ・単元テスト、アウトプットテスト				・グループワークを行い、自分の問いや解釈を共有できる。お互いの考えを擦り合わせながら、納得解や最適解のための対話ができる。 ・課題、クリエイション					
3 学期	百人一首 60人一首 土佐日記 漢字テスト	・小倉百人一首を用い、伝統的文化であるかるた遊びをし、和歌の世界に親しむ。また、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集に触れて、各時代の文化的違いを比較し、それぞれの良さを体感する。最後にクラス版5人一首を制作する。詠む上での決まりごとを各クラスごとに話し合い、縛りを設けて詠んだものを小冊子にまとめる。			個人の視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする	
						・文学作品の表現の効果や心情の変化を読み取り、自分の言葉で説明できる。歴史的仮名遣いの決まり、古典文法の基礎について理解できている。 ・単元テスト		他者の意見と自分の意見を比較しながら、目指す学びの方向性について自分で見通すことができる。		チーム内で修正しながらより良いアイデアを提案し、発表に向けて協力できる。古典の世界と現代のつながりを演劇におこし発表する。 ・課題、クリエイション	
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act		
					評価方法				学びのリソース(教材・ICT)		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●単元テスト(30%) ●小テスト・授業課題等学習の進捗状況(20%) ☆なお欠席の場合の再テストは実施しない。(単元テスト・漢字テスト)公欠・出席停止の場合は、取り組んだ課題の到達点をもとに見込み点で評価する。		●アウトプットテスト(30%) ●活動の貢献度・課題等の取り組み(20%)		<教材> 国語便覧(浜島書店) 語彙をつける入試漢字2600(筑摩書房) 基礎から学ぶ解析古典文法・演習ノート(桐原書店) <ICT> iPad・ロイロノート・Classroom <備考> 要に応じて書籍・web動画等を参考・活用する		
言語の文化的側面および言葉遊びの面白さについて		・読者に委ねられた結末の創作・文学作品からの旅行プラン作成・伊勢物語からの現代劇作		思考力・判断力・表現力							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		Googleclassroom(予定の確認) ロイロノート(進捗課題および作品の共有)		主体的に学習に取り組む態度							

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	竹澤伸一		
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校1年A・B・C組			公共		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数			使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
2時間／週			東京法令出版『公共』		✔ 課題発見	✔ 戦略的学習力	✔ 言語スキル	✔ 協働性	✔ データサイエンス	✔ クリエイティビティ	未来志向		
					✔ 可能性発見	✔ 自己修正	✔ 双方向コミュニケーション	✔ ソーシャルティ	✔ 批判的思考	✔ 論理的表現力	他者尊重		
					✔ パーソナライズな学び	✔ レジリエンス	✔ 感情のコントロール	✔ 教科と社会を紐づける力	✔ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認		
単元			単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	公共の扉を開くために 日本国憲法の再学習と自分事	高校生としての公共空間との出会いを観点を定めて追究する。 「法の下での平等」と「平和主義」の実態を追究し「自分事」として追究することができる。	社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン					
2 学期	国政と地方政治との綱引き マクロ経済とミクロ経済の理解と自分事	国政と地方政治との関係性を理解し自分たちの政治参加について模索する。 マクロ経済とミクロ経済の仕組みを理解し主権者・生活者としての行動を模索する。	他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表					
3 学期	国際政治と国際経済と自分事	国際政治・国際経済の「危うさ」の理解を基に、自分事としてどのように関わっていくか模索する。	個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする					
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act					
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	単元テスト(個の成果)40% 班活動における貢献度30%		アウトプットプレゼンテーション 30%		【教材】東京法令出版『公共』 【ICT】iPad GoogleClassroom				
「危うさ」を増す日本国憲法に対して主体的にどう向き合うか。変化の激しい国内外的政治経済の動向に対しどう向き合うか。		班の仲間と協働して憲法や政治経済の事象を自分事とし意見を持ち発信できる。											
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		Google Classroom (課題提示・提出物確認・相互連絡)		主体的に学習に取り組む態度									

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当	芥・西村・浜田		
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー										
高校1年早期学習		数学Ⅰ		自分をコントロールする Self-Control			他者をつながる Communication			新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機				
4時間／週		数研出版 数学Ⅰ		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☐ 言語スキル	☒ 協働性	☒ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	未来志向				
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャルリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重				
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>			自己承認		
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)										
1 学期	・数と式	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		社会・世界の視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン					
					実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。									
2 学期	・2次関数 ・データの分析 (・図形と計量)	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・関数やグラフの性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・データや三角比の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		他者・地域の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表					
					日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。		日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。							
3 学期	・図形と計量 (・いろいろな式(数Ⅱ))	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・論理的な考察を用いて、多面的・統合的に事象を捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする					
					基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。		手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。		学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。					
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act					
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)					
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(40%) ●Checkテスト(10%)		●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況(50%)		【教材】 ・授業プリント ・問題集クリアー数学Ⅰ+A 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど 【備考】 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する					
・2次関数や放物線を実社会でどのように用いるのか ・場面によって適したデータの分析とは何か		・無理数を使う場面に対して、自分の考えを動画でまとめることができる ・データの分析をNumbersで行い、考察内容を発表することができる		思考力・判断力・表現力										
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題、予定の確認) ・Padlet(作品共有)ほか		主体的に学習に取り組む態度										

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当	芥・西村・浜田											
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー																		
高校1年早期学習			数学A		自分をコントロールする Self-Control			他者とつながる Communication			新しい価値を創造する Creation												
					目標設定	選択		対話		つながり		情報活用		創造表現		内発動機							
時間数			使用教科書		☒	課題発見		☒	戦略的学習力		☐	言語スキル		☒	協働性		☒	データサイエンス		☒	クリエイティビティ		未来志向
2時間／週			数研出版 数学A		☒	可能性発見		☒	自己修正		☒	双方向コミュニケーション		☐	ソーシャルリティ		☒	批判的思考		☒	論理的表現力		他者尊重
					☒	パーソナライズな学び		☒	レジリエンス		☒	感情のコントロール		☒	教科と社会を結ぶ力		☒	情報リテラシー		<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>			
	単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)																		
1 学期	・集合と要素の個数 ・場合の数		・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・集合や場合の数の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る			B3 実社会の問いを生む			C3 社会貢献のデザイン											
						実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。																	
2 学期	・確率 ・図形の性質		・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・確率や図形の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		他者・地域の視点	A2 本物の素材から学びを得る			B2 対話から問いを生む			C2 学外に向けて発表											
						日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。			日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。														
3 学期	・数学と人間の活動		・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・論理的な考察を用いて、多面的・統合的に事象を捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る			B1 個人の問いを生む			C1 校内で発表をする											
						基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。			手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。			学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。											
					関わり Engage			探究 Investigate			行動 Act												
					評価方法			学びのリソース(教材・ICT)															
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例			知識・技能	●単元テスト(40%) ●Checkテスト(10%)			●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況(50%)			【教材】 ・授業プリント ・問題集クリアー数学I+A 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど 【備考】 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する										
・確率から見えてくるものは何か ・数学は人間の活動にどのような影響を与えているのか			・確率のある事象に対して、自分の考えをポスターでまとめることができる ・整数の性質をNumbersで表現し、考察内容を発表することができる													思考力・判断力・表現力							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>			・Google Classroom(進捗課題、予定の確認) ・Padlet(作品共有)ほか			主体的に学習に取り組む態度																	

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	椿・高橋正					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年全コース		化学基礎		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		✔	課題発見	✔	戦略的学習力	✔	言語スキル	✔	協働性	✔	データサイエンス	✔	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		東京書籍 新編化学基礎		✔	可能性発見	✔	自己修正	✔	双方向コミュニケーション	✔	ソーシャリティ	✔	批判的思考	✔	論理的表現力	他者尊重
				✔	パーソナライズな学び	✔	レジリエンス	✔	感情のコントロール	✔	教科と社会を紐づける力	✔	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	【1編】化学と人間生活	【1編】1章 化学とは何か、2章物質の成分と構成元素		社会的視点 社会・社会	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
	【2編】物質の構成	【2編】2章 化学結合			学期に1回、専門家からの講演・セミナーを実施し、自分の学びに自分のコメントを表現できる。		実社会にある化学に関わる社会課題について、自分の問いを生み出すことができる。		持続可能な社会に向けて、化学基礎の学びを活用できるコラムを書くことができる。							
2 学期	【2編】物質の構成	【2編】2章 化学結合		他者の視点 地域・地域	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
	【3編】物質の変化	【3編】1章 物質質量と化学変化、2章酸と塩基			実験での学びを、日常の事象へ繋げることができる。 社会課題と呼ばれるものの中から、化学と関連を発見し、課題の本質を表現できる。		対話により他者との意見を聞き発展できる。 新たな問いを見つけて、解決にこだわらず、外部への情報発信する材料を準備できる。		教科書のコラム作成に向けて創作する。 学びを学校外の誰かに発信できる。							
3 学期	【3編】物質の変化	【3編】3章 酸化還元反応		個人的視点 個人	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
	★教科書コラム作成	★教科書コラム作成			中学理科と繋がりを考えながら化学基礎を学ぶ。EssentialQuestionを用いて学習内容が定着度を客観的に把握し、補うことができる。正しい実験技能を身につけることができる。		教科の学びを教科書のコラムやNewsPicksと繋げることができる。理科的な思考力を深められる。		学習成果をプレゼンテーションすることができる。また発表について相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●アウトプット型テスト(30%)		●創作活動		<教材> 教科書・Think & Quest・iPad <ICT> ロイロノート・Keynote・Documentほか <備考> try it 化学基礎(Web動画) NHK高校講座 化学基礎 などは家庭学習で活用する							
・化学と自分の身の周りとの繋がりを説明せよ。		・単元の内容について「なぜだろう?」を考えるきっかけを意識して、専門用語を用いながら、筋道を立てて言語化できるようにする。			思考力・判断力・表現力	●単元テスト ●チェックテスト ●Think & Quest(20%)		●レポート ●授業態度 ●提出物 ●ワークシート ●活動の貢献度(50%)								
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・授業プリント(手書き記入) ・ワーク(Think & Questなど) ・ロイロノートによる画像、動画、スライド		主体的に学習に取り組む態度												

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	燧、秋山	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校1年		[高校]保健		自分をコントロールする Self-Control		他者とながら Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
1時間／週		新高等 保健体育		☒	☐	☒	☒	☒	☒	未来志向		
				☒	☒	☒	☒	☒	☒	他者尊重		
				☒	☒	☒	☒	☒	☒	自己承認		
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	・健康 ・生活習慣病・がん	・健康の概念を学び、その後自分の生活習慣を振り返り、食事、休養、身体活動と健康がどのように影響し合うのかを学習する。 ・将来、より良い生活を送るために普段からそのような習慣をつけ、気を付けていくべきかを考えていく。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン			
			・社会で起きている問題や課題の現実を知り、自分の考えを持つことができる。		・社会で起きている問題や課題の解決方法を仲間と共に考えて、見つけ、発表することができる。							
2 学期	・生命誕生 ・避妊	・妊娠から出産までの内容を学習し、それぞれの考えを述べられるようにする。 ・望まない妊娠をしないための方法を学習し、実社会と繋げて問題点や改善点を考えていく。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表			
			・教科書やプリントからの知識と社会で起こっているものを結び付けて考えることができる。		・アウトプット型テストや授業内で様々な意見があること知り、互いの意見を尊重することができる。							
3 学期	・性感染症	・性感染症の感染源を学習し、身近な存在であることを認識するとともに、感染しないようにまたは感染したらのことを考えて行動できるようにする。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする			
			・教科書やプリントから基礎知識を学習し、内容が理解できる。		・教科書やプリントからの情報をもとに自分の考えを表現することができる。		・アウトプット型テストの他に校内でポスターやスライドを発表することができる。					
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act				
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	知識技能(40%) 思考判断表現(30%) 主体的な態度(30%) アウトプット・単元テストの公欠や出席停止は追試をする(点数はそのまま)、普通の欠席は追試はしない。		●単元テスト(40%) ●アウトプット型テスト(30%) ●スライド作成・提出物(20%) ●授業態度(10%)		【教材】 ・教科書、プリント、避妊具、婦人体温計など			
将来どのような人生を歩んでいきたいか。		自分たちが議員だとしたら、どのような政策を創っていくか。							思考力・判断力・表現力		【ICT】 ・クラスルーム、ロイロノート、keynote	
ドキュメント(記録化)の方法 ＜共有と振り返りの日常化＞		ロイロノート、クラスルーム		主体的に学習に取り組む態度				【備考】				

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当		燧、秋山、釜石			
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー									
高校1年		[高校]体育		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation					
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機			
2時間／週		新高等 保健体育		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	未来志向			
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重			
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>			自己承認	
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)									
1 学期	【A組】ハンドボール・バレーボール 【B組】器械運動(マット) 【C組】サッカー・体づくり運動	【A組】アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、走りながらのパスキャッチなど基本的な技術を習得し、試合中に発揮できるようにする。 【B組】それぞれの技の習得や体の動かし方を理解する。また、仲間と教え合う場面を設け、コミュニケーション能力の育成を図る。 【C組】サッカーの基本動作やルールを習得し試合を展開する。体力を高める運動をしたり、多様な動きをつくる運動を考える。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン				
					プロや大学生などのプレーの様子を動画等で学び、自分のプレーに生かすことができる。		スポーツにまつわる様々な課題について、興味や問いを持ち提案することができる。						
2 学期	【A組】サッカー・体づくり運動 【B組】ハンドボール・バレーボール 【C組】器械運動(マット)	【A組】サッカーの基本動作やルールを習得し試合を展開する。体力を高める運動をしたり、多様な動きをつくる運動を考える。 【B組】アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、走りながらのパスキャッチなど基本的な技術を習得し、試合中に発揮できるようにする。 【C組】それぞれの技の習得や体の動かし方を理解する。また、仲間と教え合う場面を設け、コミュニケーション能力の育成を図る。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表				
					友達のプレーから良い点・悪い点をみつけ、自分のプレーに生かすことができる。		自他のプレーについて課題を見つけ、技能を高めるためのアドバイスをすることができる。						
3 学期	【A組】器械運動(マット) 【B組】サッカー・体づくり運動 【C組】ハンドボール・バレーボール	【A組】それぞれの技の習得や体の動かし方を理解する。また、仲間と教え合う場面を設け、コミュニケーション能力の育成を図る。 【B組】サッカーの基本動作やルールを習得し試合を展開する。体力を高める運動をしたり、多様な動きをつくる運動を考える。 【C組】アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、走りながらのパスキャッチなど基本的な技術を習得し、試合中に発揮できるようにする。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする				
					基本ルール・技術について、教科書から学ぶことができる。		自分のプレーについて課題を見つけ、技能を高めることができる。		試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。				
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act				
					評価方法				学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●技能・筆記テスト(50%) ●授業参加度(20%) アウトプット・単元テストの公欠や出席停止は追試をする(点数はそのまま)、普通の欠席は追試はしない。		●アウトプット型テスト(30%)		【教具】 ・体育用具				
・生涯を通してスポーツとどう関わることができるか ・自他の課題解決のためにどう行動するか		【ICT】 ・iPad ・ロイロノート ・クラスルーム											
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		ロイロノートなど		主体的に学習に取り組む態度					【備考】				

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校			Unit Plan(年間シラバス)							担当	川村祥子						
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年全コース			選択芸術 選択音楽Ⅰ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
					目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数			使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週			MOUSA1		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
					☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)													
1 学期	・歌唱表現の可能性を探ろう ・	・校歌の歌詞、メロディーを覚える、校歌の作曲家岡野貞一について各人が調査、レポートする。 ・身体の仕組みと発声について理解する。 ・音楽史(バロック、古典派、ロマン派、近代、現代)、特に作曲家について演技を通して理解し、アウトプット発表を実施する。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン								
					実際の生活の中での、伝統芸能や各種行事やイベントを取り上げて、民族と音楽の関係を考える。また、三味線音楽について考える。		現代の私たちの暮らしの中で、音楽と人との関係、役割などを考える		音楽は生活のどのような場面で、どのような形で人々の暮らしに役役立っているのかを探究する								
2 学期	・三味線を弾いてみよう ・伝統音楽や民族音楽の歴史や文化を知ろう ・外国の歌を歌おう	・和楽器・三味線の演奏を学ぶ。 ・歌舞伎音楽に親しみ、日本の伝統芸能に触れる ・コードの仕組み ・ドイツリート、イタリアオペラ、ミュージカル、ゴスペルなどさまざまな楽曲の体験をする ・コードの仕組み ・世界の音楽を調査し、風土環境、生活、文化、言語と音楽との関りを探求する。グループ学習では各地域の音楽を視覚的、聴覚的に調査し、調べたことを発表する。		地域・他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表								
					Web上で各国、各地域で行われている音楽にかかわるイベントを調べ、人々のニーズを調査する。 実際の歌舞伎公演の動画を鑑賞し、演奏体験に活かす。 iPadを活用しチームにおけるワークにより楽曲選びをしその過程も楽しむ		グループワークをする中で、他者の意見や捉え方を総合して、膨大な情報を整理できる。		特に予定なし								
3 学期	・クラシック音楽における作曲家の功績を知る ・あらゆるジャンルの音楽の創作に触れる	・クラシック音楽の、音や音楽に対する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組むことができる。 ・さまざまな音楽ジャンルにおける気になる作曲家、好きなクラシックの楽曲、オペラ作品、歌曲等々、様々な楽曲を鑑賞、歌唱、等いろいろな形で楽しみ、クラシック音楽の魅力を探る		個人の視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする								
					歌唱の姿勢や発声方法を知る。民族音楽とマスメディアや Web で耳にする音楽の違いを感じる。世界の諸民族の音楽の存在を知る。いろいろな民謡を聴き、声の出し方や表現方法を味わう。日本の楽器の一つ、三味線について、そのつくり、歴史、歌舞伎など、日本芸能などを学ぶ。クラシック音楽の概念について学ぶ		世界を8つのエリアに分けて各エリアの民族的な器楽音楽について、楽器、音楽の特性、歴史などを調べてみる。伝統芸能としての三味線が、どのような形で、私たちの暮らしの中で活用されているのか、可能性を探る		授業でグループごとの調査研究を発表する。授業内でチームワークのアウトプットを試みる								
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act									
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●まとめテスト(30%) ●授業プリント ●ドリルなど 学習の進捗状況(30%)		●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度(40%)		<教材> 適宜プリント <ICT> zoom(任意) <備考> 必要に応じてインターネットや動画配信を利用する							
歌唱や器楽、鑑賞をとおして、音楽や芸術と、生活などの人の営みに興味、関心をもち、自らのテーマを探す。			歌唱課題の理解に歌詞を可視化したり、身体表現を用いたり、自らの表現を追求する。創作においても模倣から自身の表現を見つけ発表する。														
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>			・Google Classroom(進捗課題および予定の確認)		主体的に学習に取り組む態度												

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	笹野・四方					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年美術コース		美術1		自分をコントロールする Self-Control		他者とながら Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☐	言語スキル	☐	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
3時間／週		日本文教出版		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・スケッチ ・色彩構成	・校内の中で、魅かれるスポットを写真に撮りスケッチ、色彩構成をする。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					・フィールド活動を通して社会の課題に目を向ける ・現代美術鑑賞		・作品コンセプトにより派生する場合がある		・社会課題を視覚化し伝えるデザインを考える							
2 学期	・表現を探る(平面) ・デザイン基礎 ・クライアントワーク	・アクリル、メディウムの素材の特性を理解し表現方法を探る。 ・デザインとは何か、どのようなことができるかを学ぶ ・他者の視点を考えた作品制作		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					・作品鑑賞、表現の多様性 ・モチーフとの対話、丁寧に観察し構造を理解する		・価値観の違い、個性を尊重できる鑑賞力を育む ・同じモチーフの作品でも、それぞれ違う表現があり、その個性を尊重できる鑑賞力を育む		・外部コンクール ・新渡戸祭、スタフェス							
3 学期	・かたちを探る ・パッケージデザイン	・テーマを決め、その表現に適した素材、かたちを考え制作する ・既存商品の調査から考察を行い、そこから得た学びから新たな企画として飲料の設定とデザインを展開 立体による作品制作とプレゼンテーションを通して考えたデザインを他者に伝えることを学ぶ		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					・画材の種類、使い方を学ぶ		・制作の意図を明確にし、イメージを言語化する ・これまでの固定概念に捉われることのない観察眼を養う ・観ること、描くこと、作ることを軸に手で作る楽しさを深めると同時にPCでの基本動作を学ぶ		・プレゼン型講評会 ・校内展示							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例			知識・技能	●コンセプト ●作品 ●ポートフォリオ ●プレゼンテーション		●リアクションペーパー ●提出物 ●出席、授業にのぞむ姿勢		【教材】 ・授業資料 【ICT】 ・iPad、keynote、adobe 【備考】						
・内在するものをいかに表現できるか ・課題に対して何を解決することができるか		新渡戸祭、スタフェス、外部コンクール プロジェクト発表				思考力・判断力・表現力										
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>					主体的に学習に取り組む態度											

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	笹野	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目 [高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校1年美術コース		美術1		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
2時間／週		日本文教出版		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☐ 言語スキル	☐ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	未来志向		
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重		
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☐ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正> 自己承認			
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	・ボックスアート	・現代美術の手法を学び、コンセプトを明確にし独自の世界観を展開させていく。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン			
			・フィールド活動を通して社会の課題に目を向ける		・作品コンセプトにより派生する場合がある	・社会課題を視覚化し伝えるデザインを考える						
2 学期	・立体(テラコッタ) ・アニメーション	・素材の特性を理解し、かたちを作る ・ストーリーを展開しアニメーション制作に取り組む。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表			
			・作品鑑賞、表現の多様性 ・モチーフとの対話、丁寧に観察し構造を理解する		・価値観の違い、個性を尊重できる鑑賞力を育む ・同じモチーフの作品でも、それぞれ違う表現があり、その個性を尊重できる鑑賞力を育む	・外部コンクール ・新渡戸祭、スタフェス						
3 学期	・平面(油彩・アクリル)	・油彩、アクリル、メディウムの特性を学び、テクスチャー、マチエールの表現を探る。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする			
			・画材の種類、使い方を学ぶ		・制作の意図を明確にし、イメージを言語化する ・これまでの固定観念に捉われることのない観察眼を養う ・観ること、描くこと、作ることを軸に手で作る楽しさを深めると同時にPCでの基本動作を学ぶ	・プレゼン型講評会 ・校内展示						
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act			
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●コンセプト ●作品 ●ポートフォリオ ●プレゼンテーション		●リアクションペーパー ●提出物 ●出席、授業にのぞむ姿勢		【教材】 ・授業資料 【ICT】 ・iPad、keynote、adobe 【備考】			
・内在するものをいかに表現できるか ・課題に対して何を解決することができるか		新渡戸祭、スタフェス、外部コンクール プロジェクト発表			思考力・判断力・表現力							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>				主体的に学習に取り組む態度								

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	川島					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年／探求・フード		選択美術2		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		日文		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☐	論理的表現力	他者尊重
				☐	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を結ぶ力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・自分を表現 ・過去→現在から どんな気づきを得た？ ・現在→未来 どんな未来を描き 行動を選択するか	・感覚が動くものを見つめる ・「線」「形」「余白」「動き」「配置」から作品をつくる ・同じ文脈にある外部の方と繋がり対話する		芸術的視点 社会・世界・社会	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					美術の捉えかたを知り、世界でどう活用されているのか、文化や人種を超えた視点でその可能性について視点をもちつづけることができる。		日常の事象もしくは実社会の問題に対し、役割分担を行い解決するための手段・方法を試行錯誤できる。		実社会において笑顔を生み出すアイデアを提案、対話し実現に向けて行動できる。フィードバックを元に試行錯誤できる。							
2 学期	・エモいを分解、再構成する	・keynoteとgaragebandを使って表現する ・ものごとを「上手い、下手」ではなく「リズムとその関係性」で捉えられるようになる		芸術的視点 他者・地域・社会	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					捉えかたを工夫することについて変化する自分の感覚を観察し、感じとらえるとする。		自分とは違う他者の視点の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。		学外の人に向けて、自分の考えや作品を発表・提案できる。フィードバックを元により良い在り方について試行錯誤できる。							
3 学期	・陶芸	・土の可塑性についての基本的な知識を身につける ・素材の特性を知り、表現したいものを目的に応じて形にできる		芸術的視点 個人・社会	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					自分の観察眼を用いて、自分が惹かれるものを他者に伝えることができる。学習成果をプレゼンテーションおよび相互評価することができる。											
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法						学びのリソース(教材・ICT)					
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●作品 ●コンセプト ●問いへの向き合い ●プレゼンテーション		●主体的に取り組む態度 ●仲間に還元しようとするアプローチのありかた ●相互評価		【教材】 ・教科書 ・授業プリント、動画資料 ・外部連携の方々との対話 【ICT】 ・iPadアプリ 【備考】							
<捉えかたの変換がもたらすものは何か>		個人またはグループで実践(制作活動)を伴った試行錯誤をまとめ、プレゼンする。		思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		"・Padlet(進捗共有、作品共有) ・クラスルーム(予定の確認、課題共有)"		主体的に学習に取り組む態度												

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校			Unit Plan(年間シラバス)							担当	山内					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目 [高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年 選択		書道Ⅰ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
時間数		使用教科書		目標設定		選択		対話		つながり		情報活用		創造表現		内発 動機
2時間／週		光村図書 書Ⅰ		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエ ンス	☒	クリエイティビ ティ	未来 志向
				☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュ ニケーション	☒	ソーシャリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者 尊重
				☒	パーソナライ ズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情の コントロール	☒	教科と社会を 紐づける力	☒	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>		自己 承認
単元			単元の概要			学びの羅針盤(活動内容と評価基準)										
1 学 期	・泰山刻石(篆書) ・曹全碑(隸書) ・風信帖(行書) ・蘭亭序(行書) ・争坐位文稿(行書)		・漢字の変遷とさまざまな書体を理解する。 ・古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、基本的な用筆・運筆技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 ・各書体の特徴を理解し作品を創作する。 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む。			点 検 的 に 										

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	関口					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年		英語コミュニケーションⅠ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
3時間／週		Power On English Communication I Revised		☐	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☐	批判的思考	☐	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☐	レジリエンス	☐	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・Lesson 1 ・Lesson 2 ・Lesson 3	・外国からの観光客に人気の体験型ツーリズムについてのALTの話 ・光る生き物が光る理由やその光が医療研究に利用されていることに関する生徒による発表 ・米国の大リーグで活躍する吉田正尚選手についての新聞記事		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					さまざまなトピックについて、社会課題の視点で調査する。				調べた社会課題等について、どのような解決策があるか考える。							
2 学期	・Lesson 4 ・Lesson 5 ・Lesson 6	・ミニチュア写真家、見立て作家である田中達也さんの紹介とインタビューの雑誌記事 ・バナナペーパーがザンビアの村の人々の暮らしに与えた変化と、日本の伝統技術の貢献についてのALTによる講義 ・人間の興味深い行動パターンに関する実験の手順や結果を解説する雑誌記事		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
							ペアやグループで話す際に、5W1H等のConversation Strategiesを使い、follow upクエスチョンをすることで、より長い会話をする。									
3 学期	・Lesson 7 ・Lesson 8	・プラスチックごみによる海洋汚染についての論説文 ・フィッシュ・アンド・チップスの起源や歴史、食料資源についてのイギリス人留学生による発表		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					テキストで紹介された話について、自分の経験や友人、家族の経験、あるいは実社会で起きたことで知っていることに引き寄せて、パーソナライズする。		テキストの内容に関連したオープンクエスチョンを考え、ペアやグループで共有する。		創作活動を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart				創造的な活動およびアウトプットの例 Hands				知識・技能		●単元テスト ●単語テスト ●アウトプット型テスト ●ハンドアウト課題 ●主体的チャレンジタイム		【教材】 ・Genius英和辞書、Active Listening、Active Practical Reading、DataBase 3300				
日本への旅行のリピーターに魅力ある穴場スポットの魅力やその場所の社会課題と解決策は？				・認知特性検査の結果に基づき、自分に合った覚え方で単語を覚える ・プレゼンテーション												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head				・Google Classroom ・ハンドアウト ・Loilo note				主体的に学習に取り組む態度				【ICT】 ・iPad				
												【備考】				

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当	戸 叶				
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年フードデザインコース		調理		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☐	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
3時間／週		教育図書 フードデザインほか		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☐	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☐	レジリエンス	☐	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・包丁の持ち方 ・野菜の切り方 ・調理器具の扱い方 ・「食」の社会課題	・調理の基本について学ぶ ・食に関するニュースを調べて発表する。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					世の中に出回っているレシピを検索し、選択したものを自分が身につけたスキルで実践することができる。		既存にあるレシピから実践してみて、よりよいレシピにするためにはどうすればよいのかを考察、実践する。		学んだ知識を生かし、プロジェクト活動へのつながりを目指す。							
2 学期	・調理法別の調理法 ・調理器具の扱い方 ・「食」の社会課題	・「煮る」「焼く」「蒸す」など調理法別の調理法を学ぶ ・蒸し器、オープンなど調理法に合った調理器具の扱い方を学ぶ ・スタディツアーに向けて「食」の社会課題を意識して調べる		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					授業で学んだ内容を身につけ、実習に生かすことができる				授業で学んだ内容を実習のグループ内で共有し、役割分担を行いながら実習でアウトプットを共創する							
3 学期	・調理法別の調理法 ・「食」の社会課題	・「煮る」「焼く」「蒸す」など調理法別の調理法を学ぶ ・スタディフェスタに向けて1年間の学びをまとめて、発表する		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					「食」に関する社会課題や第一次産業について、教科書や書籍、ニュースから学ぶ		A1で磨難が事を深めるためにどうすればよいのかということに向き合う姿勢がみられる。また、それを自己評価することができる。		A1、B1で学んだ学習効果をプレゼンテーション、および相互評価することができます。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●単元テスト ●出欠 ●身だしなみ		●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況		【教材】 教科書、プリント、iPad 【ICT】 ・教科サイト 【備考】 必要に応じてWeb動画、Webソフトを活用							
「食」とは何か		「食」とは何かについて自分の意見をまとめてアウトプットすることができる											思考力・判断力・表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・ドキュメント		主体的に学習に取り組む態度												

2026年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当	近藤・白石				
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校1年		論理・表現 I		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		Big Dipper English Logic & Expression I		☒	可能性発見	☐	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☐	教科と社会を紐づける力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	Part 1 Lesson 1～5	・時制を意識しながら、適切に表現できるよう練習する。 ・センテンスパターンを理解し、自分の行動や考えなどを表現できるように練習する。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
							ユニバーサルデザイン、ナッジ理論を研究し、独自のデザインを提供する。									
2 学期	Lesson 6～10	・不定詞慣用表現 ・完了不定詞・動名詞の完了形 ・知覚動詞、使役動詞 ・比較表現		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					英語を用いながら社会的テーマを学ぶ。		社会的テーマを中心に対話し、相互に気づきや課題を見つけ出す。									
3 学期	Lesson 11～14	・比較・最上級の慣用表現 ・関係詞の基礎を学ぶ。関係代名詞(制限用法、非制限用法)、関係副詞を身につける。 ・関係詞の慣用表現を学び、それらを使って意見を述べたり、論理的に描写できるよう練習する。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					基本的な英語表現をRepetition(繰り返し)を通して実際のコミュニケーションでできるようにする		身の回りのことや社会問題に触れ、自分のことばで考察できるようにする。		自分の意見をOREOで構成し、トークや対話を通して共有し相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands			知識・技能	・単元テスト・Scrumble文法語法テスト ・音読テスト ・アウトプット型テスト (30%)					【教材】 ・Factbook ・Practical Reading / Listening					
場面ごとにどんな表現が適切かを考え、Repetition(繰り返し)によって身につける。英語を英語のまま理解・解釈できるように練習する。		・自分のこれまでの活動や意見をまとめ表明する。 ・ライティング作業を通して、論理的な思考をアウトプットする。			思考力・判断力・表現力	・ライティングシート ・英作文 ・アウトプット型テスト (30%)					【ICT】 ・教科サイト、iPad など					
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・Loilo note(英語表現、単元テスト)			主体的に学習に取り組む態度	・レッスンビデオ視聴 ・プリント課題 ・Reflection (40%)										